

1 研究主題とのかかわり

本時目指す「主体的に課題追究を行い、考えを深めることができる生徒」

自分が選択した俳句に込められた心情や情景を想像し、仲間と交流することを通し、その語句や語順を選択した作者の意図を理解し、日本語の豊かさや俳句のおもしろさに気付く生徒

I-① 生徒が主体的に取り組むための課題化の工夫

谷汲中が考える「主体的に学ぶ姿」

「課題を追究する（学ぶ）」ことのよさが分かり、様々な工夫をして解決しようとする姿。また、課題が困難であっても、粘り強く取り組む姿。

導入時に、昨年度、生徒が実際に作った俳句を二句紹介する。作者（生徒）は何に感動したのか、それはどの表現からわかるのかを考えることで、本時の学習活動を理解させたい。また、その際に単元末に作句をする活動を位置づけることを知らせ、昨年よりも良い作品を作ろうという意欲をもたせたい。

導入で仲間の作品に触れることで、生徒は「難しい」と感じていた俳句を身近なものに感じ、主体的に俳句について考えようとするができるようになる。また、本時の活動内容と単元の出口の活動を知ることで、見通しをもって取り組むことができるようになる。

II-① 単位時間における有効な伝え合い活動の位置付け

谷汲中が考える「伝え合い活動」

「自分の意見を仲間と交流する活動」を「伝え合い活動」と位置付ける。伝え合い活動をすることで、自分の考えを仲間の考えと比較したり、既習事項、他教科、生活体験などつなげたりすることができるとともに、技能の定着を図ることもでき、より深い学びにつながる。

深める段階では、例示されている四句から自分が気に入った作品を選択させ、同じ句を選んだ生徒同士で句を分析する活動を取り入れる。また、その際に、句を単語ごとに区切ったカードを用意し、語順を並べ替えたり、別の語に入れ替えたりして、作者が語順や語句を選択した意図を考えさせたい。

課題別グループにすることで、生徒は自分の考えをもって伝え合い活動に取り組むことができるはずである。また、カードを利用することで、一語一語を視覚的に捉えることができ、感覚的になりやすい俳句の分析に根拠をもたせ、伝え合いの視点が明確になると考える。一方、根拠となる語句や語順が同じでも、人によって分析が違う場合もあり、それが俳句のおもしろさだと気付くこともできる。

個々の分析の違いは、各自のもつ語彙の量や生活体験の違いに大きく依存している。よって、この段階で伝え合い活動を行うことは、自分の語彙や語感を豊かにしたり、間接的に生活体験を増やしたりすることにつながり、そこから自分の考えを深めることができるようになる。

III-① 習得した知識及び技能を活用し、1時間の学習を自分の言葉でまとめる活動の位置付け

谷汲中が考える「まとめる活動」

生徒が「できた、わかった」と実感し、次時の学習の意欲をもつことができる活動を「まとめる活動」と考える。教科の特性によってまとめる方法は変わってくる。また、その方法は1種類ではない。いずれにしても、生徒自身が自分の変容を実感し、なぜ変容したのか、生徒自身が説明できることが大切である。

まとめる段階では、作者が表現したかった情景や心情について、語句や語順を根拠にして書く活動を位置づける。その際に、文字数を60、80、100から選択させる。そうすることで、「まとめる活動」への苦手意識を軽減し、誰もが自分の言葉で授業について書くことができるようになる。また、文字数を決めて書くことで、言葉を吟味したり、より詳細にまとめたりしようとする意識が生まれる。それが、長い目で「言語感覚を豊かにする」ことにつながると考える。

4 本時のねらい

例示された俳句を選択し、語句の選択や配列などの表現上の工夫に着目することを通し、それぞれの俳句に込められた心情や情景を想像することができる。【読むこと（1）ア】

5 本時の展開

	主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ	<p>1 俳句（生徒作品）を読み、作者の心情や情景を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「タータンに響くピストル雲の峰」（W・S） 陸上の試合でスタートする瞬間の緊張感が伝わってくる。（心情） 真っ青な空と真っ白な入道雲の対比が美しい。（情景） ・「入道雲」よりも「雲の峰」の方が目標に向かって集中している感じがよく出ている。（語句の選択） ・「雲の峰」を最後に置くことで、目線がグラウンドから空に移り、雄大さを感じる。（語順の選択） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の仲間の俳句を分析することで、俳句を身近なものと感じさせ、授業への意欲化を図る。（主） ・個人追究のために、分析の視点を明らかにする。
見通す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㊦ 作者は、どのような心情や情景を表現しようとしているのだろう。</p> </div>	
考える	<p>2 教科書に紹介されている四句から一句を選び、語句の選択や配列に着目して情景や心情を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① どの子にも涼しく風の吹く日かな 飯田隆太（情景 語句） ② いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規（心情 語句） ③ 跳箱の突き手一瞬冬が来る 友岡子郷（情景 語順） ④ たんぽぽのぼぼと絮毛のたちにけり 加藤楸邨（心情 語句）</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・句を選んだ理由に立ち戻って、どの語句がその根拠となっているのかを考える。
伝え合う	<p>3 自分の考えを同じ句を選んだ仲間と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰にでも」ではなく「どの子」にしたことで、公園で子供が遊んでいる様子がわかる。 ・大人の目から見た「どの子」なので、中学生かもしれない。 ・「風の吹く」から、堤防に座っている子供たちの様子を想像した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つにまとめるのではなく、意見の違いに着目し、その根拠を交流することを確認する。（伝）
まとめる	<p>4 分析した結果を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①は場所や時間を表す語句がないので、情景を自由に想像できる。作者はそれを意図したのではないか。 ・どんな情景にしても、①は、涼しい風が吹いている落ち着いた雰囲気表現した句であると言える。 <p>5 本時の課題について自分が選んだ字数で書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>③は、「冬が来る」を最後に置くことで、跳ぶ瞬間の静けさや緊張感を表現している。「突き手」や「一瞬」という言葉を選んだことで、動きが止まった感じがする。</p> <p>④は、「ぼぼ」という言葉で絮毛のかわいらしさを表現している。声に出して読むと、そのかわいらしさがよくわかる。「綿毛」ではなく「絮毛」を選んだ意図を知りたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・字数を制限し、言葉を吟味したり、詳細に説明したりしようとする意識を高める。（ま） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情景や心情を俳句の語句やその語順を根拠に述べている。（まとめ ノートの記述） </div>